

2019年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年3月8日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東
 コード番号 3662 URL <https://www.a-tm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 岩切 邦雄 TEL 052-747-5573
 四半期報告書提出予定日 2019年3月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年7月期第2四半期の連結業績（2018年8月1日～2019年1月31日）

（1）連結経営成績（累計） （％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2019年7月期第2四半期	18,524	2.5	1,177	△42.8	1,168	△43.7	741	△48.2
2018年7月期第2四半期	18,069	18.2	2,056	101.1	2,076	93.9	1,433	112.0

（注）包括利益 2019年7月期第2四半期 741百万円（△48.3％） 2018年7月期第2四半期 1,432百万円（111.9％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年7月期第2四半期	38.03	37.94
2018年7月期第2四半期	74.25	73.93

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2019年7月期第2四半期	16,795	11,807	69.8
2018年7月期	16,702	11,655	69.3

（参考）自己資本 2019年7月期第2四半期 11,721百万円 2018年7月期 11,569百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年7月期	—	0.00	—	32.50	32.50
2019年7月期	—	0.00	—	—	—
2019年7月期（予想）	—	—	—	32.50	32.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年7月期の連結業績予想（2018年8月1日～2019年7月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	40,000	6.2	4,000	△14.9	4,000	△15.4	2,600	△21.4	131.70

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年7月期2Q	19,741,800株	2018年7月期	19,738,200株
② 期末自己株式数	2019年7月期2Q	228,762株	2018年7月期	253,762株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年7月期2Q	19,507,148株	2018年7月期2Q	19,300,214株

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、「株式付与ESOP信託」及び「役員報酬BIP信託」制度において、日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与ESOP信託口及び役員報酬BIP信託口）が保有する株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。
なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「みんなで幸せになれる会社にする事」、「今から100年続く会社にする事」を経営理念としています。この経営理念のもとすべての役員及び従業員が一丸となり、さまざまな技術領域・ビジネス領域において、インターネットを通じて個人の利用者の皆様に支持・利用していただけるゲームコンテンツ、比較サイト・情報サイトやECサイトなどの企画・開発及び運営を行っております。具体的には、「人と人とのつながりの実現」をテーマに、世界中の人々に娯楽を提供するスマートデバイス(スマートフォン及びタブレット端末)向けゲームやツールアプリケーションの企画・開発及び運営を行う「エンターテインメント事業」、人生のイベントや日常生活に密着し、有益な情報を提供する比較サイト・情報サイトなど、様々なウェブサービスの企画・開発及び運営を行う「ライフスタイルサポート事業」、自転車専門通販サイトの企画・開発及び運営を行う「EC事業」の3つの事業軸でビジネスを展開しています。

2019年7月期第2四半期連結累計期間は、売上高につきましては、エンターテインメント事業及びEC事業が前期比で減少となったものの、ライフスタイルサポート事業が好調に推移し、全体では前期比で微増となりました。一方、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、エンターテインメント事業における既存タイトルの利益寄与の減少及びライフスタイルサポート事業における新規事業への先行投資による費用増等により、前年同期比で減少となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は18,524百万円(前年同四半期比2.5%増)、営業利益は1,177百万円(前年同四半期比42.8%減)、経常利益は1,168百万円(前年同四半期比43.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は741百万円(前年同四半期比48.2%減)となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は次のとおりであります。

<エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、自社で開発したオリジナルスマートデバイス向けゲームアプリケーション(以下「ゲームアプリ」)をApple Inc.が運営するApp Store及びGoogle Inc.が運営するGoogle Play等の専用配信プラットフォームを通じて、世界中の人々に提供しております。ゲームアプリ自体は基本無料で提供し、ユーザーがゲームをより効率よく優位に進めるためのアイテムを購入することで、そのアイテム購入代金がゲームアプリとしての売上となります。

2018年10月にリリースした新規ゲームアプリ「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」が好調に推移し、第1四半期連結会計期間比で売上回復のけん引役となりました。一方、2019年7月期第2四半期連結累計期間においては、既存ゲームアプリの売上が減少したため、エンターテインメント事業は前年同期比では減収減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は7,249百万円(前年同四半期比16.0%減)、セグメント利益は885百万円(前年同四半期比49.4%減)となりました。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、引越し関連、自動車関連、ブライダル関連、金融メディア等様々な事業領域において個人の利用者に向けてサービスを展開する事業者と提携し、「三方よし」のサービス理念のもと、人生のイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等様々なウェブサービスを展開しております。個人の利用者へは基本無料でサービスを提供し、パートナー企業に当該利用者を見込客として紹介することに対する紹介手数料及び成約報酬が主な売上であります。

当セグメントでは、サブセグメントとして、引越し関連事業、自動車関連事業、ブライダル関連事業、金融メディア事業、その他があります。

2019年7月期第2四半期連結累計期間は、各サブセグメントで増収幅は異なるものの総じて好調に推移しました。各サブセグメントにおいては、既存事業の育成に加え、周辺サービスを拡充しながら、新しい事業領域において新規サービスを複数立ち上げ、引き続き今後の成長に向けた先行投資を実施してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるライフスタイルサポート事業の売上高は10,364百万円(前年同四半期比25.4%増)、セグメント利益は1,285百万円(前年同四半期比3.9%増)となりました。

＜EC事業＞

EC事業では、国内外から仕入れた200種類以上の完成品自転車を専属のプロ整備士により整備を行い完全組立自転車としてオンラインで販売、自宅までお届けする自転車専門通販サイトを展開しております。

当セグメントにおける主な売上は自転車の販売代金であります。

2019年7月期第2四半期連結累計期間においては、引き続き通期での黒字化に向けて、物流オペレーション等、運営の最適化に向けた体制整備を優先した結果、売上が前年同期比で減少となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるEC事業の売上高は911百万円（前年同四半期比21.9%減）、セグメント損失は131百万円（前年同四半期は112百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は16,795百万円となり、前連結会計年度に比べ92百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の減少652百万円があったものの、受取手形及び売掛金の増加202百万円、投資有価証券の増加550百万円によるものであります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債は4,988百万円となり、前連結会計年度に比べ59百万円減少いたしました。これは主に、未払金の増加493百万円があったものの、未払法人税等の減少314百万円、借入金の減少186百万円によるものであります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は11,807百万円となり、前連結会計年度に比べ151百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加108百万円によるものであります。

④ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、5,331百万円（前年同四半期比20.0%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果獲得した資金は1,202百万円（前年同四半期は480百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,168百万円及び未払金の増加404百万円があったものの、法人税等の支払額865百万円等の影響によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は1,035百万円（前年同四半期は1,687百万円の使用）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出600百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は816百万円（前年同四半期は645百万円の収入）となりました。これは主に、配当金の支払額630百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、2019年7月期においても引き続き、各セグメント事業の強化・拡大を図るとともに、新たな事業の創出に向けた先行投資を進めながら事業ポートフォリオの強化を図ってまいります。そのためにも人材獲得・人材育成及び環境整備・組織体制の強化に注力してまいります。

上記戦略のもと、2019年7月期は、新たなサービスへの先行投資や人材・組織体制の強化等、次期以降の更なる成長に向けて、事業ポートフォリオの強化及び事業を支える基盤強化の1年として位置づけ、通期連結業績を予想しております。

2019年7月期第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、EC事業が計画未達となったものの、エンターテインメント事業の新規ゲームアプリ「少女☆歌劇 レヴュースタァライト -Re LIVE-」の投入効果に加え、ライフスタイルサポート事業も好調に推移したことにより、全体では概ね期初の予想通りの着地となりました。

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、概ね期初の計画通りの進捗であります。

ライフスタイルサポート事業及びEC事業はビジネスの特性上、例年第3四半期が繁忙期であり、下期での収益貢献を上期より多く予想しております。加えて、上期に複数の新規サービスへの投資が集中的に行われたため、当社グループの営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも下期に高い割合を占める結果となる見通しであります。

従いまして、通期連結業績につきましては、現時点では期初予想を据え置くこととし、今後、業績見通しに変更が生じた場合には、速やかに公表いたします。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は、本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

2019年7月期通期業績見通し（2018年8月1日～2019年7月31日）

売上高	40,000百万円（前連結会計年度比 6.2%増）
営業利益	4,000百万円（前連結会計年度比 14.9%減）
経常利益	4,000百万円（前連結会計年度比 15.4%減）
親会社株主に帰属する当期純利益	2,600百万円（前連結会計年度比 21.4%減）

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,984	5,331
受取手形及び売掛金	4,128	4,331
たな卸資産	679	457
その他	706	823
貸倒引当金	△10	△6
流動資産合計	11,488	10,937
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,285	1,369
その他（純額）	398	417
有形固定資産合計	1,684	1,786
無形固定資産		
のれん	1,109	1,043
その他	961	982
無形固定資産合計	2,070	2,026
投資その他の資産		
投資有価証券	374	924
敷金及び保証金	686	767
その他	407	362
貸倒引当金	△8	△9
投資その他の資産合計	1,459	2,045
固定資産合計	5,214	5,858
資産合計	16,702	16,795

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	465	401
短期借入金	100	—
1年内返済予定の長期借入金	33	—
未払金	2,417	2,911
未払法人税等	718	404
賞与引当金	—	50
販売促進引当金	12	15
株式給付引当金	43	20
役員株式給付引当金	—	11
その他	672	642
流動負債合計	4,464	4,456
固定負債		
長期借入金	52	—
資産除去債務	484	486
その他	45	44
固定負債合計	583	531
負債合計	5,047	4,988
純資産の部		
株主資本		
資本金	835	835
資本剰余金	829	829
利益剰余金	10,383	10,491
自己株式	△481	△438
株主資本合計	11,566	11,718
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2	2
その他の包括利益累計額合計	2	2
新株予約権	85	85
純資産合計	11,655	11,807
負債純資産合計	16,702	16,795

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2018年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)
売上高	18,069	18,524
売上原価	3,126	3,643
売上総利益	14,943	14,881
販売費及び一般管理費	12,886	13,704
営業利益	2,056	1,177
営業外収益		
受取利息	0	0
投資事業組合運用益	9	17
助成金収入	1	9
為替差益	3	—
その他	8	8
営業外収益合計	23	36
営業外費用		
支払利息	0	0
支払手数料	—	7
和解金	1	—
為替差損	—	36
その他	1	0
営業外費用合計	3	45
経常利益	2,076	1,168
特別利益		
新株予約権戻入益	2	—
特別利益合計	2	—
税金等調整前四半期純利益	2,079	1,168
法人税等	646	426
四半期純利益	1,433	741
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,433	741

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2018年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)
四半期純利益	1,433	741
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△0	△0
その他の包括利益合計	△0	△0
四半期包括利益	1,432	741
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,432	741

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年8月1日 至 2018年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,079	1,168
減価償却費	194	313
のれん償却額	—	65
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3	△3
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	50
販売促進引当金の増減額(△は減少)	2	2
株式給付引当金の増減額(△は減少)	△19	△23
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	3	11
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	0	0
売上債権の増減額(△は増加)	△229	△202
たな卸資産の増減額(△は増加)	△175	222
仕入債務の増減額(△は減少)	△66	△5
未払金の増減額(△は減少)	290	404
その他	△416	60
小計	1,666	2,063
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△1,184	△865
助成金の受取額	—	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	480	1,202
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△188	△109
有形固定資産の売却による収入	—	0
無形固定資産の取得による支出	△177	△263
投資有価証券の取得による支出	—	△600
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,296	—
その他	△25	△62
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,687	△1,035
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△242	△100
長期借入金の返済による支出	—	△86
株式の発行による収入	582	0
新株予約権の発行による収入	7	—
自己株式の処分による収入	713	—
配当金の支払額	△415	△630
財務活動によるキャッシュ・フロー	645	△816
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△562	△652
現金及び現金同等物の期首残高	5,004	5,984
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,441	5,331

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間（自 2017年8月1日 至 2018年1月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンターテイ ンメント事業	ライフスタイル サポート事 業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,635	8,267	1,166	18,069	—	18,069
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,635	8,267	1,166	18,069	—	18,069
セグメント利益又は損失 (△)	1,750	1,236	△112	2,874	△817	2,056

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△817百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

前第2四半期連結会計期間に実施したIncrements株式会社の企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、前連結会計年度末に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2018年8月1日 至 2019年1月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンターテイ ンメント事業	ライフスタイル サポート事 業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,249	10,364	911	18,524	—	18,524
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	7,249	10,364	911	18,524	—	18,524
セグメント利益又は損失 (△)	885	1,285	△131	2,039	△862	1,177

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△862百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。